

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18016	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	比較文化論 (Comparative Studies on Culture)				
担当教員名	森 雅文				
授業の概要及び到達目標					
<p>病気の治療やケアをめぐる文化の比較を通して、医療の文化・社会的側面について学習する。同時に、日本の医療文化を相対化して、これからの社会を支える「医療」と「看護」の可能性を考察する。近代医療の使命は「治す」ことにあったが、超高齢社会を迎えるこれからの日本では病気や障害とともに歩むことを「支える」医療への転換が求められている。そのヒントを、諸文化の医療実践や「病気」をめぐる文化のなかに見出していく。</p> <p>講義では、異なる時代や異文化の諸事例を紹介するが、雑多な知識を得ることは目的ではない。その見識をきっかけにして、自らが基盤としている文化の当たり前を見つめ直す。自らが目指す医療実践を「文化」という視点から振り返り、そのリアリティ（まさにそうだという感じ）がどのように創られているのかを問い直すことを通して、他者に関わり続ける柔軟な実践を支えるための洞察力を養う。</p>					
準備学習等					
<p>予習は、毎回の授業時に指示する。次回テーマに沿った用語や事項についての下調べや、身近な経験を文化として振り返るエクササイズを課して、自らの「当たり前」や異文化に向けられる「偏見」を考え直す機会としたい。</p> <p>復習は、自らの不足を自覚して補う学生の営みと捉えて、講義内容の理解に努めてください。「学ぶ」ことは他人から課せられる作業ではありません。この授業のテストは講義内容の理解度を計るものであり、それが低ければ十分な学習がなかったものと判断します。既知の内容であれば別ですが、理解が至らないときは、その程度に応じた自発的な学習が必要です。興味を持った内容や新たな疑問について発展的な学習に向かうこともあるでしょう。多様な学生を前にして、一律の課題で拘束することは馬鹿げています。大学生の分別として学習への自主性を保ち、理解への試行錯誤を各自で実践してください。むろん、その過程での質問やアドバイスの要求は遠慮なくしてください。</p>					
成績評価の方法	<p>授業の進捗に合わせたテスト：中間テスト（40％）・最終テスト（45％） 前半のテストに付随する課題（5％）、最終のレポート課題（10％） 授業時の質疑応答や任意の提出物（コメントペーパーや発展的学習の成果など）は、その内容評価により加算点として考慮する。</p>				
テキスト	<p>特定の教科書は使わない。 毎回の授業時にプリント資料を配付する。</p>				

参考図書	<p>(※) 波平恵美子編『系統看護学講座 文化人類学』医学書院 浮ヶ谷幸代『身体と境界の人類学』春風社 そのほか授業時の配布プリントで適宜に紹介する。</p>
備考	<p>授業は講義形式。質疑応答を交えてすすめるので、授業中の質問や意見なども歓迎する。自らで調べて考えるという心構えをもって、授業に臨んでほしい。また、授業終了後も、質問等は教室で受け付ける。前半のテストは翌週に返却するので復習に役立ててください。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連は、別途明示されている各学科の履修系統図を確認してください。</p>
授 業 計 画	
<p>第1回：文化としての「病気」と「医療」 —比較文化のまなざし— 病気や医療の経験を「文化」という視座から捉えるための基本の考え方や、諸文化の比較において求められる自己と他者（異文化）への妥当的なまなざしについて学ぶ。</p> <p>第2回：病気と呪術のリアリティ —儀礼としての「治療」— 「風邪」のような身近な病気と「のろい」の体験の比較から、「病気」や「患者」という経験の意味について理解を深める。また、呪術儀礼と外科治療の比較から、治療文化の演劇的側面について学習する。</p> <p>第3回：医療化される「いのち」 —医療の社会性— 伝統的な民俗文化（水子供養や葬送習俗など）から現代の生殖医療や医療現場のエンジェルメイクなどの幅広い事例から「いのち」の範囲や扱いの変化を捉えて、現代社会の「医療化（人生の諸局面に医療が深く関与する状況）」について考察する。</p> <p>第4回：保健医療の文化史 —社会防衛のテクノロジー— 古代日本を支えた陰陽道・風水・仏教から、近代の公衆衛生や治療医学の輸入までの大きな歴史の流れを捉えて、保健医療を時代のコスモロジー（人間や環境のあり方や両者の関係性の捉え方）が反映された文化として捉えるまなざしを学習する。</p> <p>第5回：東洋医学の身体 —漢方の思想と技法— 漢方医学の診察や処方の基本戦略と技法を概観して、その独自の身体観や病気観を捉え、西洋医学の身体観や病気観（第6回）との比較を目指す。また、国際保健の戦略変化による伝統医療の再評価についても学習する。</p> <p>第6回：西洋医学の身体 —現代医療と看護の思想— 現代医療の基盤になった西洋医学の人体観や病気観を、それが形成された歴史とともに捉えて、近現代に普及した医療文化の思想を考察する。</p> <p>第7回：老いと障害 —健全性の相対化に向けて— 成長を謳う近代社会の中で「老い」や「障害」がどのように位置づけられてきたのかを踏まえてから、それを含めた生きる実践への医療文化のあり方を考える。</p> <p>第8回：医療のパラダイム・シフト 人口減少と超高齢化を迎える21世紀の日本で求められる保健医療の可能性について、「医療・看護・福祉・介護」などの既存の枠組みを超えて考察する。</p> <p>※ 授業の進捗状況や、受講者の関心にあわせて内容の一部を変更する場合がある。</p>	